

平成27年度 東播磨・北播磨・丹波(加古川流域圏) 地域総合治水推進協議会
下流域ワーキングでの主な意見

| 会議名 | 開催日時 | 場所 | 出席者 |
|----------|-----------------------------|-----------------------|-----|
| 下流域ワーキング | 平成28年2月8日(月) 13:30~16:30 | 加古川総合庁舎5階 A、B、C会議室 | 30名 |

内 容:

- (1) H27年度の災害発生状況等
- (2) 加古川流域圏(下流域、法華山谷川流域)のフォローアップ
- (3) 出席者からの取組み事例紹介

| | 内容 | 発表者 |
|------|---------------------------------------|---------------------------|
| 資料1 | 平成27年度の災害発生状況 | 加古川土木 河川砂防課 松井課長 |
| 資料2 | 主な取組み一覧表および位置図 | 加古川土木事務所 企画調整担当 木本所長補佐 |
| 資料3 | 各戸貯留の取組み | 加古川市 治水対策課 正中副課長 |
| 資料4 | 治水対策事業の取組み | 高砂市 治水事業課 井上係長 |
| 資料5 | ため池に関する防災の取組み | 稲美町 土木課長 本岡課長 |
| 資料6 | 播磨町総合防災マップの更新 | 播磨町 危機管理グループ 武田統括 |
| 資料7 | 法華山谷川中流部左岸の防災減災の取組み (富木地区からの報告) | 富木攻氏 |
| 資料8 | 「ジュニア防災スクール」 「自主防災組織等パワーアップ講座」の取組み | 東播磨県民局 総務防災課 名越課長補佐 |
| 資料9 | 法華山谷川の取組み | 加古川土木事務所 復興事業課 前田課長 |
| 資料10 | 曇川ポンプ場の取組み | 加古川土木 河川砂防課 松井課長 |
| 参考資料 | インターンシップの取組み | 配布のみ |
| 参考資料 | 下流域ブロックの説明資料 | 配布のみ |
| 参考資料 | フェニックス共済のパンフ | 配布のみ |

| 事例発表項目 | 意見交換 | | |
|--------------------|--------------|--|---|
| 各戸貯留の取組み 〔加古川市〕 | ためる 広報、啓発 | ・今年度の実績を踏まえ、今後の 広報の仕方を教えてほしい | ・広報誌、ホームページで周知し、新聞に も取り上げられた。また、公民館等に貯留 タンクを設置しPRした。今後は、ホーム センターなど販売場所でもPRしたい。 |
| | ためる 広報、啓発 | ・大雨前にタンクを空にすること の周知方法を、教えてほしい | ・助成金の申請受付時に周知している。 |
| | ためる その他 | ・貯留タンク設置後、利用の調査 を実施してるのか。 | ・設置完了を確認しているが、利用方法の 調査は行っていない。今後考えていき たい。 |
| | ためる その他 | ・助成金は総額の1/2、上限3万 円であるが、市場価格を教えてほ しい。 | ・樽型などの修景したタンクを購入した場 合や、設置工事費が加わることにより総額 6万円を超える場合もある。 |
| | ためる 学校・公園 | ・次の展開として、校庭や公園貯 留への試みはあるのか。 | ・建設中の市民病院の地下貯留槽、加古川 駅前の道路下の貯留槽で取り組んでいる。 今後も貯留と浸透の機能確保に取り組んで いきたい。 |

| | | | |
|--|---------------------|---|---|
| 治水対策事業の取組み 〔高砂市〕 | ながす ゲリラ豪雨 | ・ゲリラ豪雨により、最近側溝の氾濫の頻度が増えてきたが、対応や対策はあるのか。 | ・行政でも調査をしているが、住民要望を出せるだけ吸い上げて対応している。その際、写真等の提供があれば有効である。対策は、緊急性の高いところから側溝等の排水能力を上げることになる。 |
| ため池に関する防災の取組み 〔稲美町〕 | ためる 事前放流 | ・雨の降る時期と田んぼに水が必要な時期が重なる。 | ・ため池の水を落とし、（雨が降らなければ）用水が無くなり、空振りになる。水利関係者と協力し取り組んでいる。 |
| | ためる 事前放流 | ・事前放流する時、下流への影響はあるのか。 | ・雨の降る前に放流し、雨が降ったら吸収しており、大きな影響はない。 ・放流する際は、影響ある下流にお知らせする。 ・下流のことを考え、上流が動くことは非常に重要な観点である。 |
| | そなえる 防災マップ | ・防災マップはありがたい。一方、地域では、障がい者など災害弱者の方を伴って、どのように逃げるのか、大きな課題もある。 | ・要望があれば、避難行動要支援者台帳を自主防災組織へ情報提供する等、地域で助けあう取組みを大事に支援していきたい。 |
| ・防災マップは、水が出たとき、どこに逃げるか常に見ておくことは非常に大事である。一方、雨の音が大きく防災無線の音が聞こえないこと、浸水時に2階に避難したが水位上昇により平常心でいれないこと等、体験された方々の意見を大事にして、取り組んでほしい。 | | ・住民の方の意見は大切である。また、マップ作成の検討委員会は住民の方も参画している。 | |
| | | ・平成23年に避難情報を防災無線で放送したが、聞こえにくかったとの指摘を受けた。現在は、テレドームサービスやサイレンを1分間鳴らすこと等で周知を図っている。また、いわゆる逃げ時マップ、タイムライン的な考えは有益である。 ・事前に準備しても、状況が想定どおり動かない場合、各人の判断を要することとなる。訓練も必要ではないか。また、訓練内容も考えていく必要もある。 | |
| 法華山谷川中流部左岸の防災減災の取組み （富木地区からの報告） 〔高木攻氏〕 | ためる そなえる 地域連携 | ・防災組織の構成員には、公務員、消防士、看護師等もいるが、いざ災害の時に抜けてしまい、弱い人が残る可能性がある。 | ・構成団体が連携して上手く機能させることが大切である。例えば、農業者の立場からは逃げていく場所の提供など考えられる。 |
| 「ジュニア防災スクール」「自主防災組織等パワーアップ講座」の取組み 〔県民局総務防災課〕 | そなえる 防災学習 | ・フェニックス共済の契約率が低い理由はどこにあるか。 | ・チラシ配布、出前受付等により、契約促進に取り組んでいるが、まだ知名度が低い。可能ならテレビの活用、イベントの機会等で引き続き広報に努めていく。 |

議事録確定署名人

東播磨県民局 加古川土木事務所 所長補佐(企画調整担当)

木本 和彦